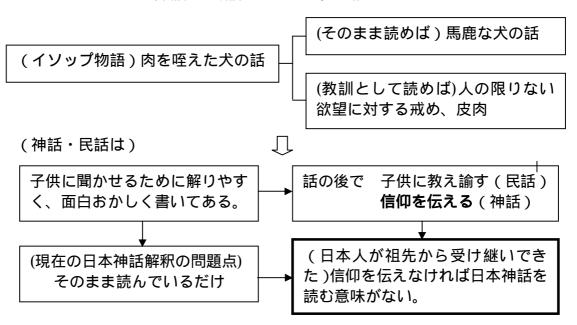
今回の目的

近年、「幼児虐待」や「生命の尊厳」を無視した犯罪が多発しているのは日本人の信仰心が急速に低下していることと無関係ではない。昔は宗教や信仰が人の行動を規制していたが(例えばバチが当たるという言葉は大人にも子供にも影響力を持っていた) それがなくなりつつある現在、生命軽視の風潮が広がるのは当然で、それは信仰心を持たない人が増えていることを意味している。つまり、親が子や孫に信仰を伝えられなくなったのであり、日本人が祖先より受け継いできた信仰が今、忘れ去られようとしている。ここに本質的な問題があり、解らなくなったら原点に帰る、今回のテーマ「日本神話」は日本人の信仰の原点に帰り、私達が祖先よりどのような信仰を受け継いできたのか、それを明らかにすることを目的とする。

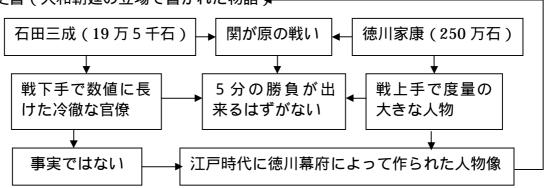
神話・民話をどのように読むか



そのまま読むと何故いけないのか?

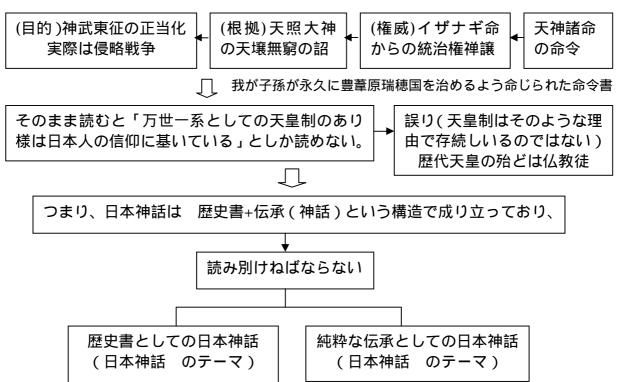
1. 日本神話の持つ特殊性

神話という言葉が使われているが、その内実は大和朝廷成立の経緯を記した歴 史書(大和朝廷の立場で書かれた物語)★

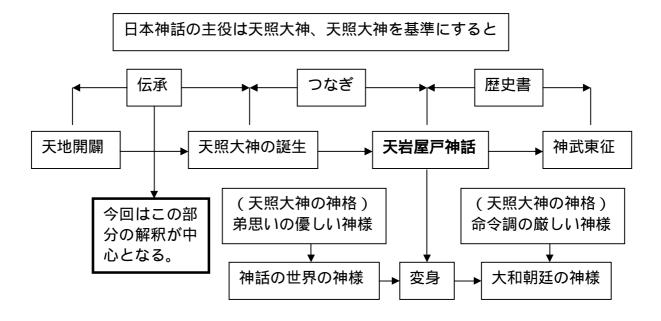


2.日本神話の構造

(国造り)



どのように読み別ければよいのか?



日本神話のあらすじ

1. 天地開闢

最初に登場される神(始源神):天御中主神(あめのみなかぬしのかみ)

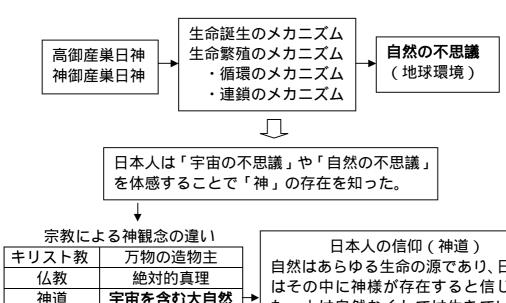
高御産巣日神(たかみむすびのかみ)

神御産巣日神(かみむすびのかみ)

日本書紀の始源神:国常立尊(くにのとこたちのみこと)

天御中主神:天空(宇宙)の中心に存在する神(**宇宙の不思議**)

産巣日とは:ムス(生す=生命の誕生)+ビ(秘=神秘)



神道 宇宙を含む大自然

自然はあらゆる生命の源であり、日本人 はその中に神様が存在すると信じてき た。人は自然なくしては生きていけな い。それは神なくしては生きていけない ことを意味している。

神道究極の極致(悟りの境地) 自らの心が自然(神様)と一体となること

2. 神代七代

その後、七代に渡って 13 柱の神々が次々に現れる。七代目がイザナギ・イザ ナミ命(順番では16・17番目)、それ以前の神々は単に名前が列記してあるだけ で、さしたる意味を持たない。つまり、系図を整えるために後世に作られた神々 とするのが現在の常識。(神武天皇から崇神天皇まで名前だけが列記されている 天皇が続いているのと同じ手法がここでも採用されている)

3.国造り神話

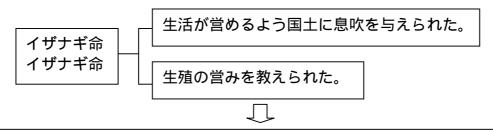
(発端)

天神諸命(あまつかみもろもろのみこと)がイザナギ・イザナミ命に「この漂える国を修理固成(しゅりこせい)するよう命じられた。

(修理固成とは?)

泡や塩が凝り固まった状態で大海原に浮遊していたものを固化・固定させ、国土に改造すること。干拓をイメージすれば解りやすいが、イザナギ・イザナミ命は何もないところに国土を造られたのではなく、ヘドロが堆積し干潟状態になっていたところを人が住み、生活が営めるよう改造された。

(神々の誕生)



高御産巣日神・神御産巣日神の持っておられる機能を具現化されたのが イザナギ・イザナミ命。

> (人体に例えれば)高御産巣日神・神御産巣日神 = 頭脳 イザナギ・イザナミ命 = 手足

(イザナミ命の死)

火の神が誕生された時の火傷がもとで死去され黄泉国(よみのくに)に赴かれた。

4.ここまでの問題点の整理

日本神話の特徴

神が現れる前に高天原(宇宙)は既に存在していた。 イザナギ・イザナミ命の出現順位は 16・17 番目。しかし国造りを始める 前には既に多数の神々(天神諸命)が存在しておられた。 国造り以前に我が国の原型らしきものは既に存在していた。

 \Box

キリスト教の考え方(造物主・唯一絶対神)

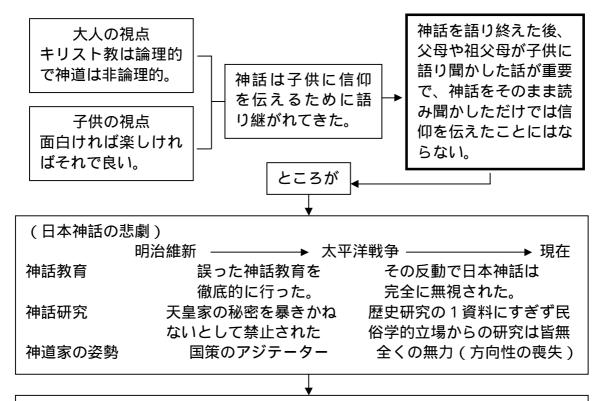
神は 月曜日に宇宙を作られた。

火~金曜日にこの地球上に存在するあらゆるものを作られた。 土曜日に神そっくりのもの(アダムとイブ)を作られ、日曜日は休息された。

キリスト教は論理性を重視する宗教。神道は非論理性(神秘)を重視する宗教。

 \Box

日本神話をそのまま語るだけでは意味がない。



日本神話は語れても信仰は伝えられない。つまり、日本神話をそのまま読むだけでは「天皇陛下万歳!」という結論にしかならない。

5. 黄泉国(よみのくに)訪問神話

(あらすじ)

イザナミ命を恋しく思われたイザナギ命は黄泉国を訪問される。

黄泉国は石で造られた堅固な建物で、その正面は頑丈な扉で閉ざされていた。 イザナギ命の訪問を知ったイザナミ命は甚く喜ばれ、身支度を整えるまで決し て中を覗かないよう懇願された。

待ちきれなくなったイザナギ命が建物の中を覗いてみると、そこには腐乱した 死体が横たわっており、その周囲はおどろおどろしい妖気で満ち溢れていた。 (**黄泉国とは「穢れ」の存在する所**)

この光景に驚かれたイザナギ命は黄泉国から元の世界(現世)に向けて一目散に逃げ帰ろうとされた。

この光景を見て激怒されたイザナミ命は黄泉国の軍隊を引き連れて黄泉国から脱出しようとするイザナギ命を追跡された。

やっとの思いで黄泉比良坂(よもつひらさか:この世と黄泉国の境界線)を越えられたイザナギ命とイザナミ命の間で以下の会話が交わされた(黄泉国の住人は黄泉比良坂を越えられない)。

イザナミ命:貴方がこのようなひどいことをなされるのなら、今後貴方の国の人々を毎日千人ずつ殺しましょう。

死の起源

キリスト教のいう「原罪」に相当。アダムとイブが禁断の果実を食べたために人は罪深い存在として生まれてくるようになった。

イザナギ命:それなら毎日千五百の産屋を建てて子供を 産ませることにしよう。

神の御加護

神の御加護とは「死なない」というのではなく「**死を乗り越える**(災難や不幸を乗り越える)」という意味。

神道の来世観 ◆

善人も悪人も全て高天原に昇り、そこで新たな人生をスタートさせる。

善人は高天原で報われ、悪人は高天原で罰せられる。

神の国とは云いながら高天原が現世と変わらない世界として描かれているのは来世を現世の延長線上にある世界として捉えていたため。

宗教による来世観の違い

	神道	仏教(浄土信仰)	キリスト教
来世	高天原のみ	極楽と地獄	天国(神の国)と地獄
死者の行先	全て高天原	善人 = 極楽	キリスト教徒 = 天国
		悪人 = 地獄	異教徒 = 地獄
現世との違い	同次元	異次元	異次元

(ところが)

浄土信仰の限界

「この世は地獄」という認識がなければ浄土信仰は成立しない(末法思想)。

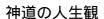
中世日本は確かに地獄であったかもしれない。 原始社会・現在の日本は基本的に平等で、平等 な社会では「この世は地獄」という思想は成立 しない(現在でも北朝鮮は別)。

中世日本は不平等な社会であったから、飢饉 や戦乱が打ち続く世の中であったから浄土信 仰が成立した。 キリスト教徒やイスラム教徒が異教徒を徹底的に排斥するのは「天国と地獄」という思想が信仰の根幹にあるため(モーゼの十戒の第1条)

宗教戦争の原因 異教徒を救う(天国に導く) ための行為が逆にした不幸

乗教徒を扱う(大国に等く) ための行為が逆に人を不幸 にしている。 = 本末転倒

(これに対して)



現世で幸せになれない人間は来世に行っても幸せにはなれない。

日本人は来世を頼むのでは なく現世を如何に生きるか を重視してきた。

(つまり)

高天原は天国ではなく、黄泉国は地獄でもない。死者の「魂」は高天原に昇り「神」となる。残された死体は自然の摂理(神の御仕業)の中で土に帰る。これが日本人本来の死後観。

 \int

本来、仏教には死者を弔うという思想はない。「仏」とは「真理」という意味で、仏教本来の死後観は「天国と地獄」ではなく「輪廻の思想」。

つまり、「人は死ねば仏になる」という思想は「人は死ねば神になる」という思想から派生したもので日本仏教だけの思想。中国やインド・東南アジアの 仏教にはこのような思想はない。

\prod

日本人は神仏習合思想の影響で神道と仏教がゴッチャになってしまっている。



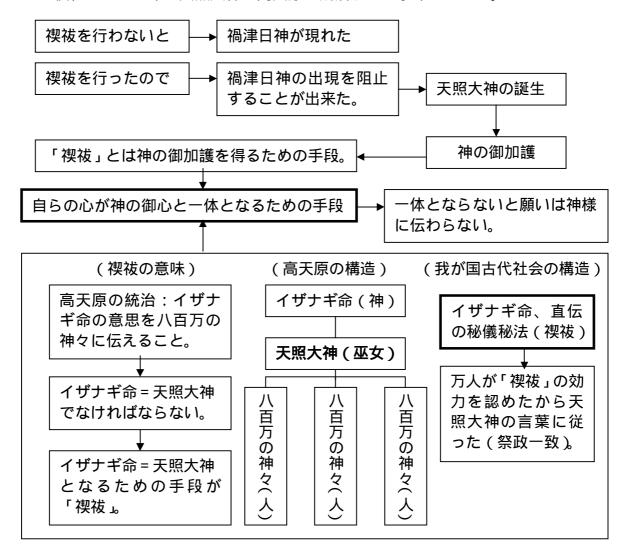
この典型が黄泉国を「死者の赴く世界」とする解釈。

6. 禊祓(みそぎはらえ)

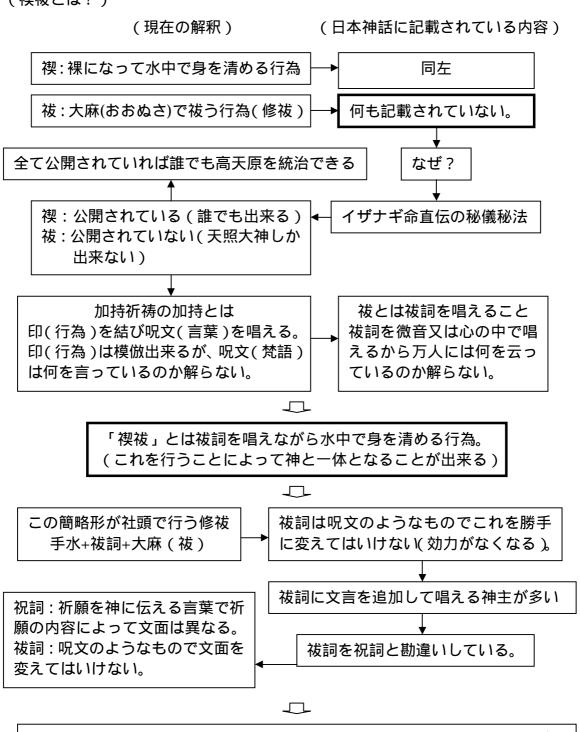
(あらすじ)

ようやく黄泉国がら脱出されたイザナギ命は身についた「穢れ (けがれ)」を取り除くために筑紫国の橘の小戸(河口:海水と真水の交わるところ)の阿波岐原で「禊祓」を行なわれた。

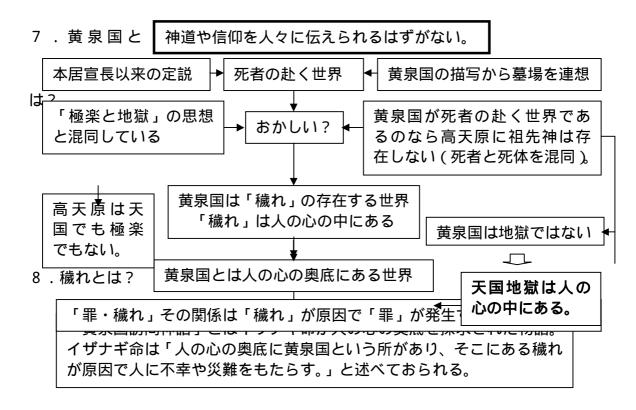
イザナギ命が身に着けていた衣服を脱ぎ棄てられた時に 12 柱の神が誕生された。川の中瀬で身を清められた時に、身に付いた穢れから禍津日神(まがつひのかみ)が現れそうになったので、これを直そうとしたところ直毘神(なおびのかみ)が現れた。 *禍津日神:この世で起こるあらゆる不幸や災難の元凶とされる神。次ぎに、水の底深く潜って身を濯がれた時に住吉の三柱の神が誕生された。最後に目・鼻を洗われた時に天照大神・月読命・スサノウ命が誕生された。その後、イザナギ命は天照大神に高天原を統治するよう命じられた。



(禊祓とは?)



「禊祓」は神道で最も重要な行為。このことを理解していない神主が多すぎる



つまり、日本神話では「穢れ」があること自体を問題にしているわけではない。穢れは誰の心の中にもあるもので、黄泉国から脱出した「穢れ」が黄泉比良坂を越えたことが問題とされている。

日本神話の記述	その真意	
黄泉国は堅固な石の建物で造られ	穢れが黄泉国から脱出しないよう	
頑丈な扉で閉められていた。	封印してある。	
イザナミ命が激怒されたのは?	イザナギ命がその封印を解いてし	
	まわれたから。	
イザナミ命がイザナギ命を執拗に	イザナギ命の衣服や体に取付いて	
追跡されたのは?	穢れが黄泉国から脱出しようとし	
	たから。	
イザナミ命の危惧	穢れが黄泉国から脱出すれば人に	
	不幸や災難をもたらすから。	
イザナミ命の捨て台詞(死の起源)	イザナミ命の危惧が的中した。	
禊祓	イザナギ命が軽率な自らの行動に	
	対して責任をとられた(黄泉国か	
	ら脱出した穢れを取り除く方法を	
	教えた)。	

罪の分類(日本人が罪をどのように捉えていたか) (大祓詞に列記されている罪) (罪の分類) 天津 畔放 溝埋 樋 放 頻蒔 尿戸 霏 民法・刑法上の罪 串刺 生剥 生膚断 死膚断 罪 人の持って生ま 白人 故久美 れた運命・宿命 己母犯罪 己子犯 国津罪 倫理・道徳上の罪 罪 母与子犯罪 子 与母犯罪 蓄犯罪 昆虫之災 高津神

高津鳥災

自然災害

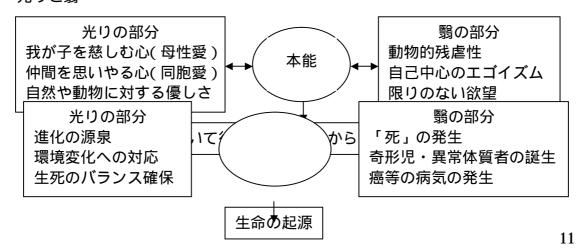
災

志

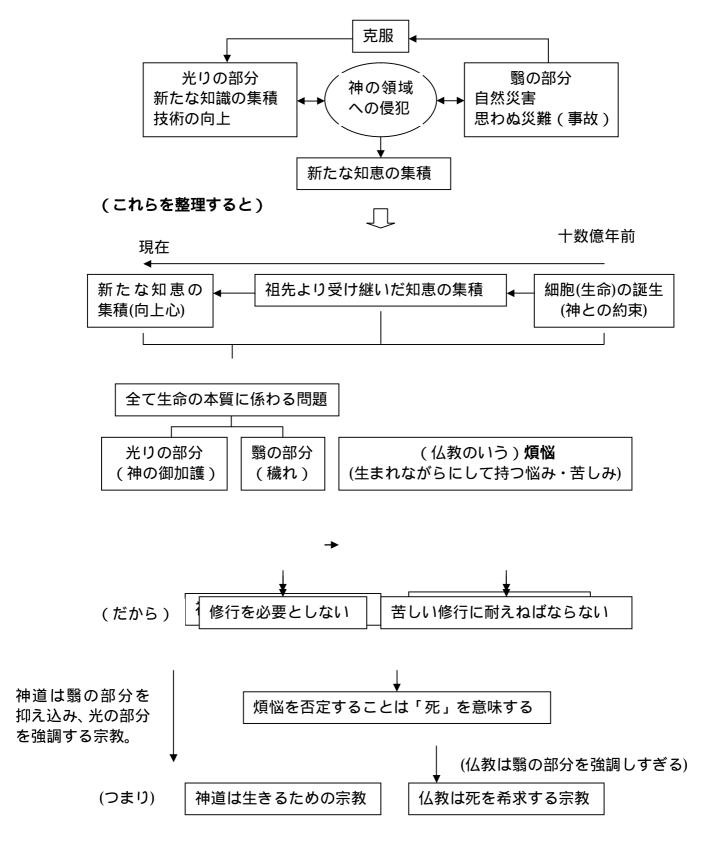
穢れの分析

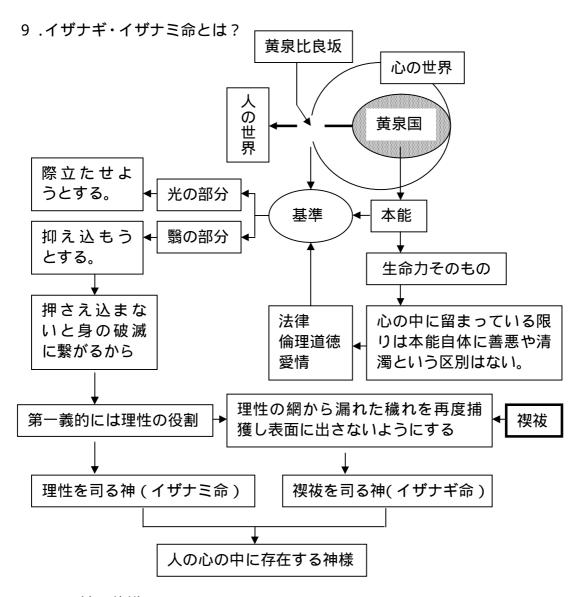
罪	罪の原因(穢れ)	穢れ	の本質
民法・刑法上の罪	人が心の奥底に持	自己防衛本能	生命誕生以来、遺
	っている動物的残	闘争本能	伝子に蓄積された
	虐性やエゴイズム、		生きていくための
	物質的·精神的欲望		知恵。
倫理・道徳上の罪	性的欲望	生殖本能	
人の持って生ま	寿命•体質	日本神話にある	生命誕生時の約束
れた運命・宿命		原罪に相当	事
自然災害	人の奢り・慢心	神への挑戦(向	新たな知恵の集積
(神の怒り・警告)		上心)	

光りと翳

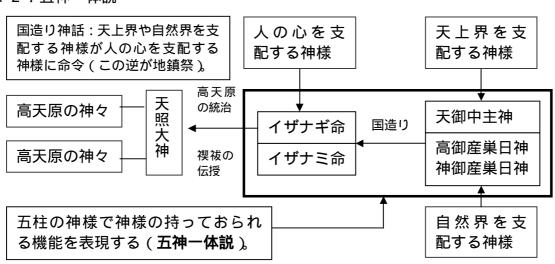


◆→ 細胞変異 ◆→ 誕生と死

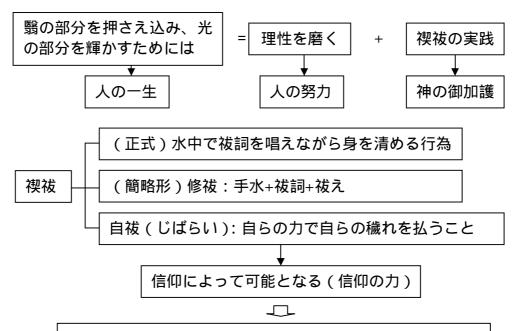




12. 五神一体説



13.人は如何に生きるべきか?



吉田兼倶(室町時代の神道家、吉田神道の創始者)の言葉 「神道とは自らの心に宿る神を祭ること」

神道講座 テキスト (第2回)

平成 18 年 3 月 2 日 (日)

新熊野神社